

勝光（二） （むき） 新聞記者、陸軍通譯。明治十二年十一月一日東京麹町  
 一番町（井伊邸内）生れ、二十七年四月十五日日歿（八八〇一（九〇四））。  
 文部省官吏淺岡（一）の二男、とほれて隣家の滋賀縣人勝氏の養嗣となる  
 と、學業終了前、養父母共歿す。明治二十二年日本中學校を卒業して臺  
 灣協會學校入學。翌年同校清語講師賀培桐と識りて渡清、東文學社に  
 入り清人の日本語を教ふ。その後、北支那毎日新聞社に移つて編輯に  
 従事、華堂と號して筆を執つた。二十七年日露父戰初頭、ハル濱附武  
 官青木官純大佐等による特別任務班募集内報の志願、郡司成忠大尉の  
 千島探檢に同行した新聞記者横川省二を班長とする非軍籍の一班六名  
 の一員に採用せられ、敵地に潜入すると横川、沖積分の二名はロシア  
 軍に捕へられて銃殺刑、自身も残る二名と共に蒙匪に獲はれ殉難。  
 『烈士勝光三氏傳』（再版・昭和十八年十一月）二十五日滋賀・彦根市  
 役所）がある。

